

牟岐線

JR 牟岐線は徳島駅から阿波海南駅に至る 77.8km の路線です。牟岐線の沿革は、私鉄の国有化、路線の連結や延伸、廃止などがあり複雑です。

徳島～小松島間 11.1km は、大正 2 年に阿波国共同汽船が敷設した軽便鉄道を鉄道院が借り受けて小松島軽便線として営業していた民設官業の路線で、大正 6 年に国有化されました。中田～古庄間 10.6km は大正 5 年に阿南鉄道が開業しました。大正 11 年に鉄道敷設法により高知県の後免から安芸、日和佐を経て古庄に至る鉄道が建設予定線とされたことから、昭和 2 年に四国循環鉄道阿土海岸線期成同盟が設立され、昭和 4 年にその鉄道の一部として羽ノ浦～牟岐間が立憲政友会の田中義一内閣で着工される予定となりましたが、政変により浜口雄幸憲政会内閣が成立すると緊縮政策となり着工が見送られました。しかし、昭和 6 年に犬養毅政友会内閣が成立し積極政策に転じたため、再び計画が日の目を見ることになり、阿土海岸線羽ノ浦～牟岐間は昭和 8 年に着工されました。

戦時体制下では、軍事的国策見地から路線が次々と延びていきました。昭和 11 年に阿南鉄道の羽ノ浦～桑野間 14.9km が開業し、同年阿南鉄道が政府に買収されたため、中田～桑野間が国鉄線となりました（羽ノ浦～古庄間は昭和 18 年に廃止されました）。続いて昭和 12 年には桑野～阿波福井間 6.3km、昭和 14 年に阿波福井～日和佐間 14.4km、昭和 17 年に日和佐～牟岐間 14.5km が開業し、戦時下の牟岐線が全通しました。

戦後、昭和 36 年に線路名称の改正が行われ、徳島～牟岐間 67.7km が牟岐線とされました（中田～小松島間は小松島線となり昭和 60 年に廃止されました）。昭和 48 年には牟岐～海部間 11.6km が延伸されましたが、このうち阿波海南～海部間 1.5km は令和 2 年に阿佐海岸鉄道阿佐東線へ編入され、牟岐線は現在の徳島～阿波海南間 77.8km となりました。

牟岐線の中で特筆すべき橋梁として那賀川橋梁についてご紹介します。那賀川橋梁は、橋長 470.65m、1 径間 46.2m、トラスト幅 5m、高さ 4m の直弦ワーレントラスが 10 連並ぶ橋梁で、昭和 11 年に完成しました。完成当時、付近には渡し船しかなかったため、通行のためにこの橋を利用する人が絶えず、列車による人身事故が多発しました。徳島県は国鉄と協議して、昭和 49 年に橋の両側に幅 1.5m の歩道橋を付け、県道大林那賀川阿南線として管理しています。また、昭和 20 年 7 月には、米海軍のグラマン戦闘機 2 機が飛来し、那賀川橋梁を南進中の 4 両編成の列車に機銃掃射を浴びせ、30 人を超える乗客が死亡しました。那賀川橋梁北端のたもとに「平和之碑」が建立されています。

<参考文献：四国鉄道 75 年史編さん委員会編「四国鉄道 75 年史」1965 年、四鉄史編集委員会編「四鉄史」1989 年、徳島県教育委員会編「徳島県の近代化遺産」2006 年など>

